

科目名	ソフトウェア工学II	担当者	松本健一
授業目的	ソフトウェアやその開発／利用プロセスに対する計測、評価、フィードバックといった定量的アプローチを基礎として、ソフトウェアの生産性や品質を高める技術の習得を目指す。		
授業内容	ソフトウェアが社会に浸透し、高度化、大規模化するにつれて、ソフトウェア開発における生産性の向上と品質の確保は、ますます重要な技術的課題となってきている。課題解決のためには、要求分析、設計、実装といったソフトウェア構築のための手法やツールが不可欠であるが、ソフトウェア開発者のスキルに大きなばらつきのある現状では、ユーザ要求を満たすソフトウェアが、限られた資源とスケジュールの中で予定通りに構築されつつあるのかどうかを把握し、必要な対策を講じる手助けをする技術も必要となる。本授業では、ソフトウェア工学の知識領域のうち、ソフトウェアやその開発／利用プロセスの定量的な計測、評価、更には、評価結果に基づく開発者／利用者支援に関わる領域に焦点を当てる。領域毎にいくつかのトピックスを概説すると共に、計測／評価／支援ツールを実際に利用してのレポート提出、発表を適宜求めることで、ソフトウェア工学における定量的アプローチの現状と今後について議論し、理解を深める。		
授業計画	1. 概論：ソフトウェア開発の現状と課題		
	2. 定量的アプローチ：ソフトウェアメトリクス、ソフトウェア開発／利用の定量的支援		
	3. ソフトウェア・テスト：テスト技法、ソフトウェア信頼度成長モデル、プロファイラ		
	4. ソフトウェアエンジニアリングマネージメント：開発コストの見積りと管理、ファンクションポイント法		
	5. ソフトウェア品質：品質評価フレームワーク、ユーザビリティ評価		
成績評価	試験(40%)、提出レポートの完成度や独創性(30%)、提出レポートの発表と質疑応答状況(20%)、および、出席状況(10%)によって行う。		
教科書	特になし。講義ノートを配布		
参考書	ソフトウェアプロセス 著者名：井上克郎、松本健一、飯田 元 出版社：共立出版(2000) その他、関連する書籍や資料は講義中に紹介する。		
履修条件	プログラミング手法、アルゴリズムとデータ構造、プログラミング言語、OSなどに関する基礎知識を有することが望ましいが、必須ではない。		
オフィスアワー	(B301)水曜日2限、金曜日3限		
配布資料	現在、配布資料教材はありません。		